

かたくり



第8号

2012年

3月25日

福島大学

行政政策学類

編集・発行

(隔月発行)

『かたくり復刊号（通算第八号）』 をお届けします。

あの悪夢のような東日本大震災及び原発事故から一年が経過しました。金谷川地区の皆さまも、この一年間、大変なご苦労をされたことと思います。心からお見舞い申し上げます。大きな希望をもって二年目に入った遊休農地復活・再生事業（Uプロジェクト）もまた、放射能汚染の大きな影響を受けました。野菜を作っても土壌汚染の影響を受けるのではないかと？ 農作業を行う学生に健康被害はないのか？ 等々、多くの不安と迷いがあり、プロジェクトはしばらく休止したほうがよいのではないかと考えました。

しかし、それではせっかくきれいになった畑がまたあつという間に元の遊休農地に戻ってしまいます。そこで、金谷川活性化委員会21の皆さんと相談し、県の地域づくり総合支援事業に申請し、新たに放射能対策も組み込んでプロジェクトを継続することにしました。

遊休農地の空間線量と土壌の放射線量を測定するとともに、ヒマワリを植栽したり、ゼオライトを散布したりして、除染の実証実験を実施しました。また、茨城大学工学部の熊沢紀之先生をお迎えして、農地の除染についての学習会を開催しました。さらには、安全性を確保したうえで、もち米とソバの栽培に取り組みました。収穫したもち米は、福島大学祭で、あんこ餅ときなこ餅にして振る舞いました。地元野菜を使ったとん汁をつくり、福島県産牛肉を使った牛串を格安で販売して、県内産農産物の安全性をアピールし、来場者の好評を得ることができました。

さらに、今年度は遊休農地に隣接する里山の整備にも取り組みました。かつては薪炭林として利用されてきた雑木林も、現在はまったく手つかずのまま放置され、藤やササが生い茂り、遊休農地に陽があまり射さないほどでした。そこで、チェーンソーなどを使って伐採作業を行うとともに、山際には、今後の一層の交流のためにピザ窯を設置しました。



除染実験と除染学習会の様子

大変な一年でしたが、一方で嬉しいこともありました。その一つは、交流の輪を拡げることができたことです。松川工業団地には飯館村の仮設住宅が建設されるなど、金谷川地区にも多くの方が避難されています。福島大学が、阿武隈地域から避難されてきた女性農業者を応援する「かーちゃんの力・プロジェクト」を立ち上げたことから、Uプロジェクトでもイベントに参加して、遊休農地で作ったソバを振舞うなど交流を深めました。もう一つは、今年度プロジェクトに参加して

くれた塩谷教養演習の学生が、サークルを立ち上げるようになったこととです。来年度は、遊休農地の除染を進め、安全性を確保したうえで、本格的に農作業に取り組みつもりです。金谷川地区とともに、復旧・復興を目指していきますので、Uプロジェクトに対するご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。



五月にはもち米を植えました。

ヒマワリの除染実験。結果は…



大学祭では、とん汁、餅、焼き鳥、牛串を販売しました。

ルーラルジョイントコンサート (十一月二十日)

十一月二十日に金谷川小学校においてルーラルジョイントコンサートが開催されました。ルーラルというのはフランス語で「田園」という意味です。様々な団体の方が出演し、迫力ある歌、演奏などを披露してくださいました。私たちは午前中から、テーブルやパイプいすなどを並べ、太鼓などの道具を運びました。コンサートは午後一時三十分から始まり、まずラ・ラ・ラの合唱と縦笛の演奏がありました。ラ・ラ・ラは地元福島のご婦人方の集まりで、とても美しい音色が印象的でした。松陵中学校の吹奏楽部の皆さんによる元気な演奏が場を盛り上げ、次の福島大学の吹奏楽団も迫力ある素晴らしい演奏を行いました。また、川俣織姫太鼓の皆さんのパワフルな太鼓の演奏がありました。大人から小さな子供たちまで幅広い年代の人で構成された圧倒するような力強い演奏は、とても心に響くものでした。最後に、福島大学の管弦楽団の皆さんがコンサートを締めくくりました。オーケストラのきれいな音色は、観客の皆さんに感動を与え、心を癒してくれました。このようにして、ルーラルジョイントコンサートは幕を閉じました。すべての団体がそれぞれの特色が生かされた多種多様な演奏は、再び聴きたいと思う素晴らしいコンサートとなりました。

結い餅プロジェクト

(十二月十七・十八日)

十二月十七、十八日にあぶくま茶屋で「結もち・プロジェクト」があり、「かーちゃん」たちが、つきたての餅をふるまい、力を合わせてつくった「結(ゆい)もち」(切り餅)を販売しました。これは、飯舘村、浪江町、葛尾村など阿武隈地域から避難してきた「女性農業者(かーちゃんたち)」に、再び農産加工品をつくらせて元気になってもらい、阿武隈地域や福島県の復興につなげていこうという、「かーちゃんの力・プロジェクト」の一環として行われました。このプロジェクトに対しては、新潟県南魚沼市石打地区の農家の皆さんから中越地震の際に支援していただいたお礼として、もち米五俵とおおばた豆一〇キロが送られてきました。

イベントの主な内容として、豆餅、白餅、かぼちゃ餅などの「結もち」(切り餅)の販売や正月餅の注文の受付などをしました。飯舘・浪江のかーちゃんたちが作った野菜や漬物・お菓子の販売もありました。また、地元松川町や金谷川地区の農家の方々も、さまざまな野菜、いかにんじん、リンゴ、リンゴジュースなどを販売しました。また、杵と臼でついたつきたての餅、そして豚汁が無料でふるまわれました。阿武隈地域伝統の「さい餅」と「じゅうねん餅」がふるまわれ、とてもおいしかったです。

他にも、福島大学職員の猪股淳行・潮親子による「三味線大道芸きでこ座」があり、素晴らしい演奏をしていただいたり、もち米と豆を送っていただいた石打地区のみなさんも餅つき応援団として、遠路はるばる駆けつけてくれました。

私たちは、もっぱら食えることが多かった気もしますが、微力ながら、のぼりやテントをたてたり、正月餅の受付をしたり、プロジェクトを立ち上げた福島大学小規模自治体研究所の取材を行いました。

あぶくま茶屋に来ていた人たちは、みな和気あいあいとしやべっていたので、少しでも被災者の人々の安らぎになり、力になれたのなら、よかったですと思います。



餅プロジェクトでは、遊休農地をつくったソバをふるまいました。

里山整備とピザ窯づくり

一月二九日に遊休農地に隣接する雑木林整備を行いました。これは、ピザ窯を作り、畑の日当たりをよくするため、遊休農地の南側の木々を伐採するものです。当日は、足元に雪が深く積もっている中での作業でしたが、午前中から主にチェーンソーを使い、夕方まで、木を切る人、切った木をまとめる人などに分かれ、協力して行われました。とても長く大きなものから比較的小さなものまで多種多様な木を次々と倒していき、作業は黙々と続けられました。その結果、整備前に比べて広いスペースができ、荒れていた山が整備されました。

二月二五日には、ピザ窯づくりが行われました。この日も朝から大雪という悪天候の中多くの人が集まり作業をしました。まず、小屋を作るために測量をして、柱となる大きな木を立てるための穴を作り、数人がかりで木を一生懸命支えました。その後、さまざまな木を組み

合わせてバランスなどを微調整し、ピザ窯を入れる小屋の骨組みが完成しました。そして、一枚一枚の板を並べ、屋根を作る作業と同時に、ピザ窯が、設置されました。ピザ窯は、ブロックを何段にも積み上げ、その上にレンガを重ねて作りました。説明書を見ながら、重いブロック塀やレンガを丁寧に組み合わせて出来ました。

そして、いよいよ三月一〇日は、ピザ窯の火入れ式を行いました。よほど普段の行いが悪いのかこの日も雪。でも、金谷川のかーちゃんたちは、伐採した木をチェーンソーで切って椅子とテーブルをつくらせてくれました。そして、二時間以上かけてピザ窯を熱し、飯舘村のかーちゃんたちがつくってくれたピザを焼いて食べました。ピザは三十秒ほどでアツという間に焼け、寒さも忘れて美味しくいただきました。これからも交流の場としてどんどん利用していきたいと思えます。



お知らせ

今年度の塩谷教養演習の有志が集まって、遊休農地で活動するサークルを立ち上げるようになりました。これまで以上に、活発に活動して、遊休農地を、「学びの場」「憩いの場」「交流の場」として利用していきたいと思えます。今後とも、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いたします。本号の編集は、サークルのメンバーである、石川雄基、白瀬達也、鈴木雄也、中村遼が担当しました。